



広島市立安佐市民病院広報紙

—第27号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

＋病棟看護師の役割



看護部副部長
中林 八千代

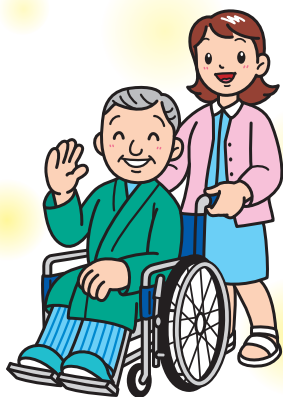
現在、私は北4病棟（脳外科、神経内科、整形外科）で勤務しております。今回は病棟における看護師の役割についてご紹介したいと思います。

安佐市民病院では、南館北館合わせて11の病棟が稼働しています。看護師の勤務体制は日勤、準夜勤、深夜勤の3交替制で24時間入院患者さまの観察・ケアにあたっています。昨今の医療制度改革では、患者さまの視点に立った安全・安心で質の高い医療が受けられる体制構築として「医療の機能分化、連携推進」によるシームレスな医療提供」が打ち出されています。急性期病院においては急性期に特化した医療提供が期待され、急性期を脱した患者さまは、地域の医療機関・施設または在宅へと医療サービスが途切れないようなシステム作りが要求されています。

これらにおいて、積極的に連携機能を進めているのが「脳卒中地域連携」と言えます。2008年4月から脳卒中对策として、超急性期から

回復期、維持期にわたる脳卒中医療がこの地域でも展開されるようになりました。当院への脳卒中入院患者さまは、年間約400名、最も多い疾患は脳梗塞で約7割以上、ついで脳出血、クモ膜下出血の順となっています。殆どの患者さまが緊急入院であり、特徴として、突然の発症で一命をとりとめても意識障害、言語障害などさまざまな障害をもち、今までと違った生活、生き方を選択しなければならぬ状況に追い込まれます。勿論、軽症な方もおられ無事自宅退院をされるケースもあります。また、反対にリハビリも困難なケースもあり、看護師はそれぞれのケースに合った看護を提供していかねばなりません。多くは、何らかの機能障害が残る為、急性期の治療が終了すると、専門的な回復期リハビリテーションへの連携を早期に図っています。当院と連携を図っている回復期病院は、「広島市立総合リハビリテーション病院」「共立病院」「日比野病院」の3病院です。転院に関しては、医師がご本人ご家族と相談して申し込みを行っています。

ンを実施すること、多職種と協働して計画的な回復支援を行うこと、障害受容など精神的なサポートすること、などがあげられます。実際、連携機能を持つことで病棟看護師の意識にも変化が見られました。脳卒中急性期の看護は勿論、早期離床の推進、感染・栄養管理の充実、転院調整など、無事に回復期リハビリ病院へ連携を図るにはどのような看護を提供したら良いか、より質の高い看護の提供を考えるようになりました。当院は地域の基幹病院であり、その果たす役割は大きいといえます。地域の医療機関からのご紹介患者さまや重症救急患者さまを一人でも多く受け入れ、病棟を中心とした急性期医療機能の充実を図る必要があります。その為には、医師はもとより看護師も多くの能力を身につけ、皆様に信頼される安全で安心な看護の提供に日夜努力して参りたいと思っています。



診療科紹介シリーズ

外科

外科主任部長
平林 直樹

外科のスタッフが昨年3名、今年4月以降2名変わり大幅に若返りましたので、改めて「まめでぐんす」の紙面をお借りして外科の紹介をさせていただきます。

外科の病気と言って一般の人が頭に思い浮かべるのは、骨折等の外傷の処置や盲腸（実際には虫垂炎）の様な手術ではないかと思えます。ところが実際に骨折の治療は整形外科が行っていますし、切り傷の治療は皮膚科で行われています。実際に外科で手術を受けた患者さんの内訳は6割以上が乳がん、肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓、脾臓がん、食道がん等のいわゆる悪性疾患です。それ以外には胆石症、気胸、ヘルニア（いわゆる脱腸）、急性虫垂炎、腸閉塞、潰瘍穿孔等の良性疾患が続いています。

診療は卒後30年クラスの経験豊かな部長が5名と卒後15年前後で医学博士も取得し体力・気力の充実した副部長4名および最近すっかり人気が無くなった外科医をすすんで目指してくれたフアイトと正義感あふれる後期研修医4名で行っています。今年の4月に当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されましたので、がんの疾患別にスタッフを紹介させていただきます。

多幾山院長は4月から現職に就いております。食道がん治療の領域では日本のトップリーダーの一人で日本食道学会の評議員でもあります。また、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）という厚生労働省の研究費で運営されている日本で最も権威のある臨床研究グループに中国地方では唯一参加しています。

平林主任部長の専門は胃がん治療で日本胃癌学会の評議員です。JCOGの胃がん外科グループに広島市民病院とともに中国地方では唯一の参加施設となっています。

向田呼吸器外科部長の専門領域は食道がんと肺がんです。ともに胸部（肋骨と横隔膜に囲まれたところ）にある臓器を扱っています。日本食

道学会の評議員で日本呼吸器外科学会専門医でもあります。WJOGという西日本最大の臨床研究グループに属して積極的に新しい治療開発を行っています。

佐伯部長は日本消化器外科学会指導医・日本肝胆脾外科学会評議員（同高度技能指導医）で肝・胆・脾臓疾患を専門としています。内視鏡科の協力の下に県下でも有数の肝、胆、脾の悪性腫瘍手術件数を誇っています。また、がんとは関係ありませんが胆石症に対する腹腔鏡手術や脳梗塞等により食事を取ることが不自由になった患者さんに対して栄養を取る方法として胃ろうの作成を中心となっており行っています。

村上乳腺・内分泌外科部長は久松医師の後任として今年の7月に広島大学病院（乳腺外科講師）より赴任してきました。日本乳癌学会の評議員で学会運営にも参加しています。また、JCOGには中国地方では岡山大学、福山医療センター、呉医療センターとともに参加しています。

吉満副部長は今年の4月に大腸・肛門外科専門医として広島大学病院から赴任してきました。手術件数が飛躍的に増えている大腸がんの治療

●●●診療科紹介シリーズ

を埒本医師（後述）とともに日本のトップレベルにしてくれるものと期待しています。

杉山副部長は平林主任部長と共に胃がんの治療を行っています。

JCOG の施設コーディネーターとして胃がんの臨床試験を実質的に行っています。今年は日本消化器外科専門医の取得を目指しています。

埒本副部長は昨年 4 月に三原医師会病院の副院長に転出した佐藤医師の後任として赴任し今年が 2 年目です。昨年はスタッフの関係で獅子奮迅の働きでしたが、今年度から大腸外科のスタッフが増えました（吉満医師）ので、吉満医師と共に日本でのトップレベルの治療の提供を実現してくれるものと確信しています。

三村副部長は昨年 4 月に呉医療センターの呼吸器外科部長に転出した山下医師の後任として赴任しました。日本呼吸器外科学会専門医で向田医師と共に肺がんのみならず、アスベスト被曝に関連した悪性中皮腫の治療開発に取り組んでいます。

以上昨年从今年にかけて外科のスタッフが大幅に変わりました。後期研修医も含めると 13 人中 9 人が代わりました。医療の質を落とすこと

は許されませんが、今後も外科での療養期間中に主治医が変更になる事は十分考えられます。また、厚生労働省も拠点病院と地域の医療機関との地域連携の重要性を強調していま

す。どうか「まめでがくんす」の読者の方は安佐市民病院での主治医とは別に「自分の生活環境や病歴を熟知されている「かかりつけ医」をお持ちになる事をお勧めします。



今年の 7 月に久松医師の退職に伴って病棟で撮った写真です。
佐伯医師に指でさされているのが退職した久松医師でその右側が多幾山院長です。

院内各部門の紹介

臨床検査部 微生物検査室

臨床検査技師 吉田 知子



臨床検査部の微生物検査室では感染症の治療および院内感染等の予防のために、以下のような仕事を行っています。今回は微生物検査室の仕事を紹介します。

○菌の検出

微生物検査室では、患者さまの尿や便、痰（たん）など様々な検体について病気を起こす菌がいなかったり、またその菌にはどのような薬が効くのかを臨床検査技師が検査しています。

○菌の検出状況の監視

菌の検査の他にも、微生物検査室には重要な仕事があります。

それは、院内感染（入院中に病院の中で菌をもらい感染すること）を防ぐために、院内でどんな菌がどのくらい検出されているのかをチェックして報告することです。

特に薬剤耐性菌と呼ばれる薬の効きにくい菌については、検出したことを病棟や院内感染対策チームに報告し、急にたくさん検出されていないかを監視するなど、常に目を光らせています。

○院内感染対策チーム（ICT）への参加

微生物検査室のメンバーは、院内感染対策チーム（ICT）に所属しています。

ICTは医師、看護師、薬剤師、その他多職種から構成されており、それぞれの立場から力を合わせて院内感染を防ぐために活動しています。

微生物検査室の検査技師は主に菌の種類や特徴、検出状況などについての情報提供を行ない、院内感染の防止だけではなく、感染症に対しても最適な治療が行えるよう貢献しています。

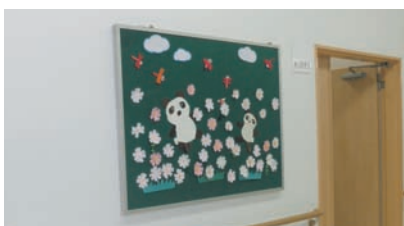


院内掲示をご覧下さい!!

病院内には様々な掲示がされており、色々な案内のパンフレット類もおいてあります。病気や薬についての解説、受診時の注意事項、健康保険関連や診療機関に関する内容など皆様の診療にお役に立てる情報をタイムリーに準備しています。

「ご自由にお持ち帰りください」と表記されているパンフレットや書類は手にとってご覧になり、必要に応じて持ち帰ってゆっくりとお読みください。また、記載内容に不明の点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

院内掲示にはそのほかにも心が和む風景写真や手芸作品等があります。診察や検査の合間に待ち時間等がある場合には是非ご覧ください。



総合相談室

をご利用ください

総合相談室
米澤 美紀



急な思いがけない病気で安佐市民病院へ入院となってしまった。これからどうなるのだろう…という不安を抱える毎日。でも、なんだか日を追うごとに体は楽になってきたようだし、主治医の先生や病棟の看護師さんからは、「病気は少しずつ良くなってきてますよ」と聞いてホッとひと安心。でも、横になっている時間は長かったし、体力も落ちてしまった。まだまだ今までどおりの生活には戻れそうにないかな、なんて思っていると、「そろそろ退院後のことを考えましょうね」という主治医からの言葉。

一みなさん、こんな言葉が頭に浮かんでいませんか？

『もう退院のことを考えないといけないの??』

『どうして完全に治ってないのに退院なんて言うの??』

『3ヶ月は入院できるよって周りの人は言ってたのにどうして?』

医療を取り巻く政策・情勢がめまぐるしく変わる中、入院期間がどんどん短縮化されているという話を聞いたことはありませんか？

入院期間は、画一的に「〇ヶ月まで」と決まっているわけではなく、病気の種類や病状、その他さまざまな要素をふまえて決まります。安佐市民病院でなければ提供できない高度な医療、医学的な管理が終了した時点で、当院での入院期間は終了、すなわち“退院”となるため、患者様・ご家族が思っているよりずっと早く退院の言葉が出てくるかもしれません。

では、どうすればいいのでしょうか？

『まだ自信はないけど、家に帰るしか方法がないのかしら??』

医療機関は機能・役割分化されており、病院には様々な種類があります。たとえば、リハビリを専門に行う病院、一番悪い病状を脱した後の全身の管理を行う療養型病院、癌の痛みやしんどさを専門的に扱う緩和ケア病院…などです。患者様の状態に適した病院へ転院することで、引き続き治療を継続することができるのです。しかし、「転院」するためには、いろいろな条件があって、必ずしも希望どおりの転院先に行けるとも限らない現状があります。

希望先に転院できない?!

ますます不安ですね。

どこに、どのような病院があるのか、また、どのような病院が転院先に適しているのか、といったことを患者様・ご家族だけで調べるのは至難のワザです。

思いがけず「退院」の言葉が主治医から早く出たとしても、決して医師や看護師、病院のスタッフが患者様を見捨てたわけではありません。引き続き、安心して療養できる場所、転院先の病院の紹介など、総合相談室の医療ソーシャルワーカー・看護師が病棟スタッフと一緒に支援させていただいております。総合相談室はこのような部署ですので、いつでもお気軽に相談におこし下さい。



❀❀❀ 可部南女性会花のボランティア感謝状贈呈式 ❀❀❀



正面玄関の左右に花壇があるのをご存じですか？ 季節毎のかわいい花々を絶えることのないようにいつも心にかけ、安佐市民病院で10年間も「花のボランティア活動」を続けてくださっているのは「可部南女性会」のみなさんです。

可部南女性会は、中山幸子さんを会長とした200人近い女性の集まりです。「ほほ笑みの生まれるまちづくり」をめざして、アルミ缶・古紙回収で車いすを寄贈されたり、見守り隊や声かけ隊で安心・安全のまちづくりに貢献されたりと、地域に根ざしたあたたかく思いやりのある活動で日々頑張っているらしいです。安佐市民病院で毎年6月に行っている「健康祭り」でもご協力をいただいています。

そういった活動のひとつに「花のボランティア」があり、当院の他にも可部駅、可部南小学校など7カ所の公共施設に花壇を設置し、私たちに憩いや安らぎを提供してくださっています。

そんな安佐市民病院での花ボランティア活動に感謝して、7月12日、感謝状の贈呈式が行われました。代表の中山さんをはじめとしてリーダーの川村さんなど7名が出席して下さい、当院多幾山院長から感謝状が手渡されました。中山さんたちは「花のほとんどは種から育てるんですよ。長く続けるためには、『できることをできる時にできる人が』を合い言葉として頑張っています。多くの人にきれいですね、癒されますねと声をかけていただくのが喜びです。喜びは多くの人たちと分かち合えてこそ本物だと信じています。」と話して下さいました。

可部南女性会のみなさん。これからも患者様やご家族のためによりしくお願いします。そして、花を見て心癒されたみなさん、可部南女性会の活動をごらんになりましたら、是非、声をかけて下さい。

（ボランティア委員会 葛城寿江 記）



**産婦人科トイレなのですが、点滴を持って入ると、とっても狭いし、とっても苦労しています。
あの狭さなんとかして欲しいです。**

「皆様の声」にご意見をいただきありがとうございます。このたびはトイレの利用に際し、ご不便な思いをおかけしましたことをお詫び申し上げます。

今回のご意見は、南館2階耳鼻咽喉科待合室手前のトイレであると思われます。改修に際し、男性用トイレであったスペースを男女共用トイレとし、女性用トイレであったスペースを車いす対応トイレに変更いたしました。そのため、男女共用トイレの内部は以前の女性用トイレと比べ通路スペースが狭くなっており、点滴などを持って入られる方にはご指摘の通りご不便をおかけしてしまう現状となっております。

尚、車イス対応トイレにつきましては、車いすの方に限らずどなたでもご利用いただけます。その旨の案内をトイレ入口に表示しておりますので、男女共用トイレのご利用が困難な方におかれましては、そちらのトイレをご利用くださいますようお願いいたします。

庶務担当課長 西村 剛

【病院機能評価認定の更新】

病院機能評価とは療養環境の整備や医療サービスが安全性にも配慮された形で適切に提供されているのかなど、患者様中心の医療体制が整っているのかを病院機能評価機構に審査していただき、お墨付きをいただくというものです。

安佐市民病院は5年前に機能評価の受診をし、適切な医療機関として認定されました。この病院機能評価は5年ごとに受診することになっており、本年は認定後5年目を迎え、更新のための受診をいたしました。築後ほぼ30年を迎え、一部に老朽化等が見られて病院機能に影響が出始めていますが、日々進歩する医療技術の提供、安全で安心な医療サービスの提供、最善で適切な医療の提供を目指して職員一丸となって取り組んでいる事が評価され、再度認定を頂くことができました。

今後も地域医療の中核病院として、当院は地域の皆さまと共に成長してまいります。



安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。